

情報活用能力 27の目標 ~もっと具体的に整理しよう!~

	学習内容	下学年	上学年	将来目指す姿
A 活動スキル (知識及び技能)	A1 記録と編集	写真や動画の撮影や音声の記録ができる。 「写真や動画を撮って記録できるよ」	写真や映像、音声の加工編集ができる。 「とった動画の編集ができるよ」	複数のアプリケーションを組み合わせで情報を編集することができる。
	A2 PCの操作	書き込み入力やローマ字入力ができる。 「書き込みやタッチパネル、タイピングで文字を入力できるよ」	ローマ字入力やファイルの管理ができる。 「ローマ字打ちと保存、読み込みができるよ」	クラウド等を用いてデータを安全に管理活用することができる。
	A3 ウェブの検索	キーワードで検索できる。 「『…』というキーワードで検索しよう」	サイトの構造を理解して情報を見付けられる。 「～のページで『…』というキーワードで検索しよう」	目的に応じてデータベースや検索サービスなどを使い分けることができる。
	A4 図書利用	図書館内にある本を見付けられる。 「『…』という本はあの棚にあるよ」	目次や索引などを活用し、本から関係する情報を見付けられる。 「『…』のことはあの本の〇ページに書かれているよ」	文献データベースを活用して、必要な文献を見付けられる。
	A5 インタビュー	質問を用意することができる。 「～ということをインタビューしよう」	下調べをしてインタビューすべき質問を選ぶことができる。 「～の…については、〇〇さんに～とインタビューしよう」	インタビュイーの考えを引き出すために追加の質問ができる。
	A6 アンケート	何を聞くか質問を考えられる。 「～というアンケートをとろう」	目的に合った質問の形式や内容、方法を考えられる。 「～というアンケートを…という方法でとろう」	設問を組み合わせた集計・分析を想定して設問の形式や選択肢を考えることができる。
	A7 メモ	大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる。 「大事だと思うことを短い文で書こう」	箇条書きや単語でポイントをまとめて書くことができる。 「要点を箇条書きで整理して書いたり、単語を書いたりしよう」	メモをとるべき場面を主体的に判断し、適切な方法で記録することができる。
	A8 口頭発表	資料を提示し大きな声ではっきりと話す。 「資料と声で伝えよう」	資料を効果的に示し、身振りや声の抑揚など、伝え方を工夫できる。 「資料の提示方法や身振りなどを工夫して伝えよう」	オンラインサービスの特質に応じて伝え方を工夫する。
	A9 プログラミング	問題の解決には必要な手順（物事の分解、情報の分類や関係づけ、解決手順の組み合わせ、試行錯誤）があることに気付く。 「こんな手順があるんだな」	簡単なプログラムを作成し、問題を解決することができる。 「問題を解決するために、このプログラムを作ろう」	物事の解決策をシステムとしてとらえ、コンピュータで大量のデータを分類整理し、シミュレーションで情報の規則性や関係性を見出し問題解決の方法を最適化することができる。
	A10 統計	簡単な表やグラフを用いて、大まかなデータの特徴や傾向を見出すことができる。 「表にまとめたリグラフに表したりして考えると…」	データを活用し、統計的に問題解決することができる。 「データを活用してこの問題を解決するには…」	統計指標、回帰、検定などを用いてデータを統計的に整理・分析できる。

	学習内容	下学年	上学年	将来目指す姿
B 探究スキル (思考力・判断力・表現力等)	B1 問題発見 課題づくり	ある事象から問題を見つけ、疑問をもつ。 「何?」「どのように?」「なぜ?」	ある事象や解決した結果から問題を見つけ、目的や課題を明らかにする。 「~ということを考えると~という問題がある。だから、~しよう」	現状を分析し目的や課題を明らかにする。
	B2 学習計画	立てられた計画をもとに見通しをもつことができる。 「今、~だから、つぎは…するといいね」	見通しをもって自分で計画を立てることができる。 「~となるだろうからこういう計画を立てよう」	グループメンバーの特性を生かして役割を分担し計画を立てることができる。
	B3 取捨選択	課題解決につながる情報を選ぶことができる。 「この情報にしよう」	根拠をもって情報を選ぶことができる。 「この情報にしよう。なぜなら~」	重要度や代表性を考えて情報を階層化することができる。
	B4 読み取り	一つの資料から視点をもって情報を読み取る。 「~について、この資料を読むと~」	複数の情報から共通点・相違点を見つけられる。 「~について、この資料とあの資料を比べて読むと~」	複数情報から仮説を生成したり、推論したりすることができる。
	B5 創造	情報から分かったことをまとめられる。 「この資料から~ということが分かった」	情報を組み合わせて新たな意味を見いだすことができる。 「この資料の~とあの資料の~から…だと言える」	情報を批判的に考察し、新たな価値を創出することができる。
	B6 伝達内容の構成	伝達内容を順序良く組み立てることができる。 「まず…。次に…。そして…」	伝達内容を論理的に組み立てることができる。 「~だ。なぜなら…」 「~だ。つまり」 など	ウェブサイトなど、複数の内容からなる情報を伝達する際に、適切に構成することができる。
	B7 表現の工夫	メディアに応じた表現ができる。 「〇〇で調べたことを表現しよう」	伝えたいことに応じて表現できる。 「~を伝えるために〇〇で…しよう」	色彩やフォント、映像・音響効果なメディアの特性を理解して表現を工夫できる。
	B8 受け手の意識	相手を意識して伝え方を工夫する。 「~に向けてだから、こう伝えよう」	相手の反応を予測して内容や伝え方を工夫することができる。 「〇〇は~する(と考える)と思うから、こう伝えよう」	不特定多数やSNS上など状況に応じて伝え方や内容を工夫できる。
	B9 試行錯誤	うまくいかない時やよりよくしたい時に繰り返し取り組もうとする。 「うまくいかないから、~を変えて、もう一度やってみよう」	試作やシミュレーションを通して問題解決の方向性や改善策を見いだす。 「それぞれの場合に分けてやって、どうすればいいか考えよう。」	時間、コストなどの制約条件のもとで、問題解決方法を最適化することができる。
	B10 評価と改善	学びを振り返ることができる。 「振り返ると~だ。」	振り返ったことをもとに次の活動を考えた り、問題を発見したりする。 「振り返ると~だ。問題は…。だから、次は~しよう。」	ふりかえりをもとに学習計画を修正・調整することができる。

	学習内容	下学年	上学年	将来目指す姿
C 情報モラル (主体的に学習に取り組む態度)	C1 コミュニケーション	相手によって、受け止め方が違うことを理解する。 「～のことについて、わたしはAと思うけれど〇〇さんはBだと思うんだ」	責任をもって情報を発信する。 「～のことについて、わたしはAだと思う。なぜなら、(倫理的な観点で)～だからだ。」	ネットワーク上のコミュニケーショントラブルに対して原因や対策を説明できる。
	C2 法と権利	人のつくった作品や情報を大切にする。 「～さんの作品って、すてきだね」	著作権や肖像権に留意して情報を扱う。 「法律・規則では～と決められているから…」	情報技術の発達が著作権に与える影響を説明できる。
	C3 健康と安全	情報機器を使ってよい場所や時間を守る。 「～で使おう」「〇時〇分まで使おう」	情報機器を使う場所や時間を自分で管理できる。 「…するから、～で〇時〇分まで使おう」	健康や安全に対する情報機器・サービスのメリット・デメリットを説明できる。
	C4 ルール・マナー	ルールやマナーが必要であることを理解する。 「～という約束って大事だな」	ルールやマナーを相手と一緒につくる。 「～ということが問題だから、どんなルールを作ったりマナーを守ったりすればいいかな？」	ルールやマナーを創造し、コミュニティ内で共通理解を図ろうとする。
	C5 セキュリティ	パスワードを安全に管理する。 「パスワードは～としよう」	なりすましやウイルスなどの危険を理解する。 「～な場合があるから、…するために〇〇しよう」	情報セキュリティを確保するための方法を説明できる。
	C6 個人情報	自他の情報をむやみに他人にもらさない。 「～は伝えちゃだめだ」	自他の情報が伝わる範囲を考えて行動する。 「～は、〇〇まで伝わるのが考えられるから…」	個人情報を法的な理解を踏まえて取り扱う。
	C7 情報社会の将来	情報社会の特色や新しい情報技術を理解する。 「今、こんなことがある(できる)んだね」	新しい情報技術への関わり方や情報社会の中でどう生きていくか説明できる。 「今、こんなことがある(できる)から、～しよう」	情報社会にどう関わっていくか説明できる。

※ 「下学年」は1～3年生、「上学年」は4～6年生とし、目標の具体を示している。「」内の言葉は、育てたい児童の具体の一部である。「将来目指す姿」は高校卒業時の姿を想定している。